

## Ⅲ. 学校とつながってつくる豊かな未来事業

### 1. 小学校外国語体験活動事業（豊中市教育委員会受託事業）

豊中市が総合計画で推進している「共に生き共に学ぶ開かれた社会を築く」ために、豊中市市民公益活動条例に基づいて豊中市教育委員会と協働実施している「豊中市小学校英語（外国語）体験活動」提案公募型事業に選定され、受託した（2006年度より）。地域に暮らす外国人（ボランティア）が学校と協働し、地域に根差した社会参加を展開していく可能性を模索することを目指した。

#### <事業内容>

全豊中市立小学校の3年生から6年生を対象に、国際理解教育の一環として外国語に触れ親しむ体験活動を実施した。その上で、次の3点を柱に据えた「共に学び、創造する心豊かなまちづくり」を推進した。

- ①教職員や子どもに地域に暮らす異なる言語、価値観、文化を持つ人との豊かな「であい」を提供した。
- ②その「であい」から、もっと知りたい、つながりたいという動機が芽生え、相互理解を促すためのコミュニケーション能力が双方向に向上するよう取り組んだ。
- ③学校に在籍する外国にルーツを持つ・外国籍の子どもたちの自尊感情がはぐくまれ、マイノリティの子どもエンパワメントになること、と同時にサポーター自身のエンパワメントにもつながる取り組みをした。

#### <実施体制>

<ボランティア：57人（22か国）、コーディネーター5人>

外国語体験活動の中で英語の授業を希望された学校では、英語を第1、第2言語または生活・学習言語としてきたボランティアが中心となって授業を行った。内容についても英語やその他の言語の文系だけにとどまらず、それぞれのルーツの国の文化紹介をおり交ぜた形で授業を進めた。ボランティアの国籍や年齢、職業、在留資格、来日経緯、滞日歴、日本語の程度はさまざまであった。

#### <実施実績>

ボランティア数	57人
ボランティア活動総時間数	1,270時間
体験子ども数	約37,500人
ボランティア国籍数	22か国・地域 内訳 〔フィリピン、中国、韓国、タイ、ブラジル、インド、インドネシア、日本、ペルー、アフガニスタン、イギリス、オーストラリア、パキスタン、ハンガリー、バングラディシュ、フランス、ベトナム、マレーシア、モロッコ、モンゴル、ルーマニア、ロシア〕

### 2. 国際教育推進事業

#### ◆豊中市国際教育推進協議会

文部科学省は2005年8月に「初等中等教育における国際教育推進検討委員会」報告書をまとめた。国際関係や異文化を単に理解するのではなく主体的に行動するための態度や能力の基礎を育成する「国際教育」の必要性を唱え、「国際教育推進プラン」を実施する地域を指定した。豊中市もその一つとして、2008年度までの3カ年の事業に取り組んだ。それを引き継ぐ型で推進プロジェクト協議会を作り、豊中市でユネスコスクールを設立、韓国の教員との交流などを行った。2010年度より「豊中市国際教育推進協議会」を立ち上げた。

2016年度は、9月1日の第1回協議会の開催のみとなり、具体的な活動や研究・研修はできなかった。

《豊中市国際教育推進協議会の開催について》

・協議会の開催 1回

第1回 9月1日 取り組みの方向性 規約と委員構成の確認、研究テーマの設定

◆帰国渡日児童生徒学校生活サポート事業・豊能ブロック協議会

＜豊能ブロック協議会構成団体＞ 計 22 団体

大阪府教育委員会	豊能地区在日外国人教育研究協議会
池田市教育委員会	池田市在日外国人教育研究協議会
豊中市教育委員会	豊中市在日外国人教育推進協議会
箕面市教育委員会	箕面市在日外国人教育研究会
能勢町教育委員会	能勢町在日外国人教育研究協議会
豊能町教育委員会	豊能町在日外国人教育研究協議会
豊能地区進路保障協議会	豊能地区人権教育研究協議会
池田市進路保障協議会	(公財) とよなか国際交流協会
豊中市進路保障協議会	(公財) 箕面市国際交流協会
箕面市進路保障協議会	大阪府在日外国人教育研究協議会
豊能郡進路保障協議会	大阪府立学校在日外国人教育研究協議会

＜豊能ブロック 「多言語による進路ガイダンス」＞

実施日時	2016年 11月5日(土) 13:00～16:00 13:00～14:00 進路説明会 14:00～14:20 先輩体験談 14:30～16:00 個人相談会
場 所	とよなか国際交流センター
参加者数	86人 内訳 [ 生徒 12人/保護者 12人/通訳者 11人(5か国) 先輩 2人 /関係者 49人 ]

◆南北 코리아 と日本のともだち展

2001年北朝鮮で起きた飢餓問題を受けて、「21世紀を平和の世紀としたい」という願いのもとに、日本と朝鮮・韓国・在日コリアンの子どもたちの出会いと交流の場として「ともだち展」が東京で始められた。2011年は東日本大震災の影響で東京開催が困難となり、大阪において実行委員会形式でこの「ともだち展」を大阪国際交流センターならびにとよなか国際交流センターで開催することになった。今年度は6回目の大阪展であった。今回の絵画展のテーマは「わたしの一日をしょうかいます」とした。なお、今年度から豊中展は開催しないことになった。

**【構成団体】** 大阪府ユネスコ連絡協議会(大阪ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、箕面ユネスコ協会)、(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク関西事務局、(公財) 関西韓国 YMCA、国際教育フォーラム、(特活) コリア NGO センター、在日韓国基督教会館(KCC)、在日コリアン青年連合(KEY)、(特活) とんだばやし国際交流協会、(公財) 大阪 YWCA、(公財) とよなか国際交流協会

①絵画展示会	開催期間	12月9日(金)～12月11日(日) 10:00～18:00
	場 所	大阪国際交流センター 1F ギャラリー
②トークイベント	開催日	12月10日(土) 14:00～
	場 所	大阪国際交流センター 3F 会議室1・2
	テーマ	「ピョンヤンでの出会い」(朝鮮を訪問した大学生による報告)
③多文化コンサート	開催日	12月10日(土) 15:00～
	場 所	大阪国際交流センター 小ホール
	内 容	「ともだち平和コンサート」
④共同制作	テーマ	「空でつながる東北アジア～たこづくり」(1F ギャラリー展示)

◆ルーツ教員研究会

1991年1月の日韓外相会談により、日本政府がこれまで国籍条項を設けていた教員採用の門戸を広

げらようになった。しかし、その任用形態は「期限を付さない常勤講師」という完全な開放には至らなかった。そんな中で 2012 年より、この問題に関心のある大学教員や研究者とともに、在日外国人教員の聞き取りや実態調査をすすめてきた。各都道府県市町村において採用されている外国人教員の聞き取りや各地方自治体の教員採用実績等を中心に調査を始めて 5 年目に入った 2016 年度は、外国人教員への聞き取りや採用に関わる経緯の聞き取りとともに諸外国の教員採用における外国人採用の実態調査をすすめてきた。また、障害教員研究会との交流会を 2 度持ち、それぞれの研究実績や課題を共有できた。次年度（2017）は、これまでの調査結果をまとめ、関係者や他の教育研究団体に広く報告会を開催することと、障害教員研究会、部落出身教員の会、LGBT 教員等のマイノリティ教員（研究者も含む）との交流会を持ちたいと考えている。

【研究会開催日】（場所はいずれも、とよなか国際交流センター）

	月日	内 容	人数（うち外国人）
1	5 月 22 日（日）	今年度の調査計画、文献「諸外国の公務員採用」など	10（3）
2	7 月 30 日（土）	新聞記事検索方法、諸外国調査分担、聞き取り報告など	16（6）
3	10 月 8 日（日）	聞き取り報告、報告書内容の概略、新聞記事検索報告など	11（4）
4	1 月 9 日（月）	諸外国調査報告①、新聞記事検索、聞き取り報告など	12（4）
5	3 月 19 日（日）	諸外国調査報告②、報告書作成分担、シンポ開催など、障害教員との交流	38（14）
合計			87（31）

【研究内容】 外国ルーツ教員や関係者の聞き取り、各自治体教育委員会の採用形態と採用実績調査、諸外国の外国人教員採用状況調査

【聞き取り人数】 計 14 人（ルーツ教員 8 人、関係者 3 人、行政・教育機関 3 人）

【諸外国調査】 計 12 か国・地域（韓国、中国、香港、台湾、オーストラリア、アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、フィンランド、南アフリカ）

### 3. 多文化子どもエンパワメント事業

#### （1）とよなか子ども日本語教室

2010 年度に始まった「とよなか子ども日本語教室」から日本語指導者グループ「とよなか JSL」が生まれ、2012 年度より、とよなか国際交流協会・とよなか JSL・行政の三者協働事業「とよなか子ども日本語教室を拠点とした学習に必要な日本語力・生活力の保障とそのシステム作りのための事業（「子どもはほんごプロジェクト）」が 3 ヶ年計画として始まった。2016 年度は 4 月から 8 月までは昨年度の体制で実施し、9 月より、豊中市教育委員会の提案公募型委託制度による委託事業としてとよなか国際交流協会が受託し、協会は活動の周知や参加希望者の取次ぎ、学校や市教委等との調整役として事業を運営した。実際の指導に関してはとよなか JSL の協力を得ながら進めた

#### ◆とよなか子ども日本語教室の運営

豊中市内の日本語指導が必要な児童生徒を対象に日本語学習のための教室を週 3 回催し、適宜学校とも連絡を取り合った。ボランティアは教室の前後に随時ミーティングを開き、指導内容の確認や振り返り、子どもの情報交換などを行った。子どもの日本語指導者養成講座を修了したボランティアの指導力が継続的なかわりのなかで向上し、さまざまな子どもの日本語力に応じたカリキュラムが作成されると同時に、子ども同士の相互学習にもつながった。また、日本語指導を必要とする子どものスムーズな受け入れや教室内での情報共有に努めた。

日本語学習相談は昨年度並みの件数となった。これは去年同様、（1）「子ども日本語教室」の認知が学校現場や保護者側に進み、開催時間や申し込み方法などの概要についての問い合わせが減少したこと、

(2) 教室に通う子どもの保護者、学校との連携がスムーズにいったため、通級者への相談対応の必要が少なかったためと思われる。

実施日	毎週月曜 15:00~16:30、16:30~18:00
	毎週木曜 15:00~16:30、16:30~18:00
	毎週土曜 14:30~16:00/16:00~17:30
場 所	とよなか国際交流センター
期 間	2015年4月7日~2016年3月18日
回 数	131回
参加者数	子ども のべ 1,689 人、 ボランティア のべ 1,201 人 合計 2,890 人
日本語学習相談	25 件

#### ◆ボランティア募集

今年度は、チラシでのボランティアの募集を行い、新たに2人のボランティアが参加した。昨年度「子どもの日本語指導者養成講座」で実施していた内容を個別対応に切り替えボランティアの養成を行った。

#### (2) 多文化フェスティバル

国際教育の推進を図るため、豊中市国際教育推進協議会との共催で多文化フェスティバル(帰国児童生徒、在日コリアン児童生徒・渡日外国人児童生徒など、国際に関わる子どもやその保護者、また国際教育に関心のある先生が、一堂につどい、つながり、交流を深める機会)を例年開催している。

12回目を迎えた2016年度は、参加グループが主体的に体験型ブースを準備し、当日参加者が各ブースの工作や各国のあそび、楽器、衣装などの体験をした。国際教室、韓国朝鮮のことばとあそびのつどい、学習支援「サンプルイス」、池田市の外国にルーツを持つ子どものグループ、「学楽多」・「小学校外国語体験活動事業」など市内・近隣各地で活動している子どもたちや日々サポートしているおとながブース出店や活動紹介に関わった。ベトナム料理の昼食も市内在住の外国人が準備・提供した。

また、大阪大学人間科学科および人間科学研究科よりインターンの学生が運営に携わり、新たな企画の実施なども試みた。

運営参加メンバー	豊中市教育委員会人権教育課・学校教育課、豊中市外国人教育推進協議会、とよなか国際交流協会、大阪大学インターン生
会議日程	9月30日、10月6日、10月28日、11月10日、11月17日、11月18日(計6回)
内 容	昨年度の課題や反省を踏まえ、運営団体や対象となる市民が参加しやすく、交流をはかれるような企画について検討・準備をおこなった。
参加者数	計26人(9月30日4人、10月6日4人、10月28日5人、11月10日5人、11月17日4人、11月18日4人)
多文化フェスティバル	11月19日(土) 10時30分~14時30分
場 所	とよなか国際交流センター
参加人数	235人

#### (3) 若者支援

※平成28年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により実施。プログラム名「外国人の若者の生活力を地域ではぐくむ日本語サポート事業~わかもの×ちいき×いばしょ~プログラム」

※委託期間：2016年5月9日~2017年3月20日、※その他の期間は、自主財源で実施

外国にルーツをもつ人のなかでも、これまで対象事業の少なかった「若者世代」に対して、2013年度より様々な講座や活動を行ってきた。2013年度から2015年度までの3年間の活動(3つの取り組み、計6つの活動)の成果と課題をふまえ、2016年度は居場所づくりの活動を継続するとともに、新たな活動として、夜間中学校や定時制高校に通う若者を対象とした日本語支援、若者の相談を目的とした取り組み、若者に関わる支援者などを実施した。また、行政関係部署や地域若者支援団体などで構成される事業運営委員会においても、新たに現場に関係する4団体の委員を迎え、事業に関する情報共有や助言をいただくなどした。

#### ◆事業運営委員会

実施日	2016年7月7日、11月14日、3月13日(計3回)
メンバー	豊中市 教育委員会 人権教育室 課長 豊中市 教育委員会 帰国・渡日児童生徒相談室 担当者 豊中市 市民協働部 ぐらし支援課 課長

豊中市 市民協働部 くらし支援課 若者担当主幹 豊中市 人権文化部 人権政策課 課長 NPO 法人 ZUTTO 職員 一般社団法人キャリアブリッジ 事務局長 大阪府立桜塚高校定時制 教諭 豊中市立第四中学校 教頭 大阪大学 未来共生戦略機構 特任准教授 大阪大学 未来共生戦略機構 特任助教 地域人権学習会「ぼちぼち」元主催者・社会福祉士 公益財団法人とよなか国際交流協会 事務局長、事業担当者
--

◆外国人の若者の生活力を地域ではぐくむ日本語サポート事業～わかもの×ちいき×いばしょ～プログラム

I. 「～つちかうにほんご～わかもの×ちいき～」

地域に暮らす外国人の若者のなかでも、日本語習得の機会が限られると思われる全日制高校以外(定時制高校、通信制高校、夜間中学校など)に通う若者について、生活言語を中心とした体系的な日本語の指導を実施した。学習者のニーズのあるテーマ設定や、日々の生活や今後の就労などで役立つ日本語の学習を提案するなど、学習者が興味関心をもって学ぶことが出来るような内容を心がけた。また、学習者が関わる他の日本語活動との情報共有や他機関との連携も実施した。

実施日/期間	2016年4月1日～2017年3月31日 毎週土曜日 14時～16時 (※事業委託期間は、2016年6月11日(土)～2017年3月4日(土))
対象	全日制以外の高校もしくは夜間中学に通う外国にルーツをもつ若者
場所	とよなか国際交流センター
回数	29回
内容(一例)	日常生活で使う日本語[普段の生活について、生活で気になる言葉について(動詞の使い分けなど)](6月11日) / 働くための日本語[社会人としての日本語について(敬語などを中心に)](8月27日) / 日常生活で使う日本語&働くための日本語[生活で気になる言葉について(職場でのコミュニケーションなど)](11月26日) / 日常生活で使う日本語[生活で気になる言葉について(日常生活で見かける漢字など)](1月14日)
参加者数	若者 のべ 54人 (うち外国人 54人) 講師 のべ 38人 (うち外国人 20人)

II-①. 「～とびだすにほんご～わかもの×いばしょ」相談してみよう編

外国にルーツをもつ若者が、自分の身近な生活課題に基づいたテーマについて、日本語での交流・コミュニケーションを行った。実際の相談現場で「相談員」として活動するスタッフが講師を務めたため、参加者の生活上の悩みや興味関心などを話を引き出しながら、就労や恋愛・家族関係など、多岐にわたるテーマで、日本語で自分の気持ちを表現したり、日本の労働環境や家庭生活について知る機会をえたりすることができた。

実施日/期間	2016年4月1日～2017年3月31日 毎週土曜日 14時～16時 (※事業委託期間は、2016年5月21日～2017年3月18日)
対象	外国にルーツをもつ若者
場所	とよなか国際交流センター
回数	42回
内容(一例)	就労における不安を日本語で伝え、労働法の知識をやさしい日本語で学んだ(5月28日) / 家族・仕事など複合した課題について日本語で伝えて、課題整理を行った(9月24日) / 学校進学に関する不安を日本語で伝えて、課題整理を行った。(2月4日)
参加者数	若者 のべ 96人 (うち外国人 96人) 講師 のべ 46人 (うち外国人 22人)

II-②. 「～とびだすにほんご～わかもの×いばしょ」たまりば編(しろろ・かたろろ・やってみよう)

外国にルーツをもつ若者のための居場所「若者のたまりば」において、食事づくりや対話の活動を通じて日本語を使った交流、体験活動をおこなった。活動にあたっては、参加者が安心・安全が保障された場で、同じ外国にルーツをもつ仲間(ピア)と出会い、相互に交流できるような場づくりを心

がけた。

内容面では、料理や音楽、進路など、若者が興味関心を持ちやすいテーマの設定を心がけ、趣味に関する日本語表現や気持ちの表現、将来に関する日本語表現の習得を目指した。

実施日／期間	2016年4月1日～2017年3月31日 毎週土曜日 17時～20時 (※事業委託期間は、2016年5月14日～2017年3月18日)
対 象	外国にルーツをもつ若者
場 所	とよなか国際交流センター
回 数	46回
内容（一例）	みんなのやりたいこと [「やりたいこと」をテーマに、仮定や未来形でのにほんごを学んだ] (6月4日) / パッタイづくり (タイ料理) [タイにルーツをもつ若者に教わりながら、調理と交流を通して飲食・調理に関する日本語を学んだ] (8月6日) / ダンスを学ぼう [ダンスを通して、動作などに関する日本語を学んだ] (10月8日) / たまりばクリスマス会 [自主クリスマス会の開催を通して、催事料理にちなんだ日本語を学んだ] (12月24日)
参加者数	若者 のべ 328人 (うち外国人 328人)
	講師 のべ 46人 (うち外国人 34人)

#### ◇課外活動やアクティビティなど

「若者のたまりば」参加者のニーズにこたえて、通常の活動に加えて、以下のような取組を実施した。

実施日	内容	会場
7月9日	表現活動ワークショップ	とよなか国際交流センター
8月27日	音楽を楽しむ	すてっぷホール
12月17日	出張たまりば (映画『さとにきたらええやん』鑑賞) ※センターでの活動も通常通り実施	ローズ文化ホール
2017年1月14日	音楽ワークショップ	すてっぷホール
1月28日	多言語多文化セミナー「この『自由』な世界の中で」 参加	とよなか国際交流センター

#### Ⅲ-①. ～つなげるにほんご～わかもの活動ボランティア養成講座 (ボランティア・コーディネーター養成研修)

外国にルーツをもつ若者支援事業運営にあたって、今後の持続可能性を念頭に、コーディネーターとして活動全体を運営する人、およびボランティアとして活動の企画・運営に携わる人材育成のための研修を実施した。今年度は、ボランティア・コーディネーターとなる人に学んでほしい多様な人に関わる際の知識や対話の方法、活動のあり方についての視察などに関する講座を、下半期から1～2か月に1回の頻度で開催した。

実施日	テーマ	講 師	参加者数 (うち外国人)
9月4日 (日) 14時～17時	地域の取組から学ぶ① 地域における子どもや若者への先駆的な取り組み実践を、実際に活動現場を視察しながら伺った。<まちあるき編>	暮らしづくりネットワーク 北芝 (箕面市) の職員、ボランティアの皆さん	8 (6)
9月4日 (日) 17時30分 ～19時	地域の取組から学ぶ② 視察を通じて、自分たちの活動を相対化し、課題の洗い出しなどをおこなった。。<レクチャー・交流編>	暮らしづくりネットワーク 北芝 (箕面市) の職員、ボランティアの皆さん	8 (6)
10月2日 (日) 14時～17時	労働法と社会 (入門編) ① 労働法などの社会教育を行うと同時に、関連題材を用いたやさしい日本語教育についても学んだ。	ラボルテ雅樹さん (ユニオンぼちぼち)	14 (8)
10月2日 (日) 18時～21時	労働法と社会 (実践編) ② 労働法などの社会教育を通じて、どのように外国	ラボルテ雅樹さん (ユニオンぼちぼち)	14 (8)

	人当事者や若者たちと向き合うか、実践を通じて考えた。		
10月29日(土) 15時～17時	人とつちかう場づくり・対話づくりについて①大学の哲学の授業で用いる対話の題材を活用しながら、人とのコミュニケーションのあり方について考えた。	菊地建至さん (金沢医科大学)	6 (3)
10月29日(土) 18時～20時	人とつちかう場づくり・対話づくりについて②大学の哲学の授業で用いる教材を活用しながら、実際のコミュニケーション場面を想定しながら、参加者同士で対話表現の実践をおこなった。	菊地建至さん (金沢医科大学)	6 (3)
12月4日(日) 15時～17時	「自分まる！性って人に決められること？」①性の多様性を考えることを通じて、社会的マイノリティのおかれた現状に目を向け、外国人への日本語支援について考える。	田中一步さん、近藤孝子さん (にじいろ i-Ru)	6 (4)
12月4日(日) 17時～19時	「自分まる！性って人に決められること？」②参加者同士で意見を出し合いながら、多様な生活背景をもつ参加者が集う日本語活動のよりよいあり方について考える。	田中一步さん、近藤孝子さん (にじいろ i-Ru)	6 (4)
2017年2月5日(日) 15時～17時	識字・日本語教室の運営と実践のあり方①識字・日本語教室の運営経験や参加者との交流の在り方をきき、よりよい日本語活動について考える。	阿部寛さん(社会福祉士、 人権学習会「ぼちぼち」)	7 (4)
2月5日(日) 17時～19時	識字・日本語教室の運営と実践のあり方②識字・日本語教室の運営経験や参加者との交流の手法を実践し、日本語活動について考える。	阿部寛さん(社会福祉士、 人権学習会「ぼちぼち」)	7 (4)
3月4日(日) 17時～18時15分	相談員の手法から学ぶ ～参加者に寄り添った傾聴方法とやさしい日本語でのコミュニケーション～	金湖蓮さん(性暴力被害者 支援センター「ひょうご」)	8 (6)
3月5日(日) 15時～18時	識字・日本語教室の運営と実践のあり方③識字・日本語教室の実践手法を体験し、自分たちの活動にどのように反映するか意見を出し合う。	阿部寛さん(社会福祉士、 人権学習会「ぼちぼち」)	4 (2)
		合計	94 (58)

### Ⅲ-②. ～つなげるにほんご～わかもの活動ボランティア養成講座(活動報告会&つながりワークショップ)

外国人の若者特有の日本語教育課題や活動のあり方について、地域市民や関係団体に向けて、新たな活動の提案や活動の周知を目的とした報告会形式の催しを、ボランティア・当事者が中心となって企画、運営した。報告会は、昼の時間帯に開催し、同日に一般財団法人とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」が主催する若者支援関連のシンポジウム参加者にも参加してもらいやすいよう工夫を行った。

また、同日開催のイベントとして、若者に関心の高い「恋愛」をテーマに、恋愛や性について正しい知識や情報を身につけ、参加者同士で考えを深め合うワークショップを実施した。

2016年度若者支援事業 活動報告会/つながりワークショップ	
実施日/期間	2017年3月4日 ①活動報告会 13時～14時30分 ②つながりワークショップ 15時～16時45分
対象	外国にルーツをもつ若者、活動に関心のある地域市民、学校・行政等関係者、若者支援民間団体関係者など
場所	とよなか国際交流センター
内容	2016年度の若者支援事業について、活動運営に関わったコーディネーター・講師・活動参加者などから、活動のふりかえり・成果についての報告をおこなった。
参加者数	①17人(うち外国人5人) ②9人(うち外国人8人) 合計 26 (13)

**(4) てーげーコミュニケーションズ (多文化エンパワメント・メディアプロジェクト) (※自主事業)**

昨年度の多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクト「てーげー部」の活動を、色々な活動のニッチな部分に入り込んだ映像制作やメディア活動をおこなう集まり「てーげーコミュニケーションズ」として再編成した。今年度は、昨年度から取り組んできた DVD 作品『ぼくと沖縄と みんな』を完成させ、頒布をおこなうことができた。また、2016年4月3日に開催された多文化ダンス教室・若者クラス合同発表会『魅惑のエンタテインメント・ショー』の本番や舞台裏を撮影した DVD 作品『魅惑のエンタテインメント・ショー』(2枚組)を作成した。

『ぼくと沖縄と みんな』については、随時頒布や上映をおこない、観た方からの反響もいただいている。また、下半期からは協議離婚問題を扱った『リコン・アラート』のネット動画の制作・編集にも協力した。

実施日/期間	2016年5月20日、6月5日、6月19日、7月3日、7月17日、9月11日、12月25日、12月27日、2017年1月16日、2月5日、2月12日、2月19日、2月21日、3月10日、3月13日、3月14日、3月17日、3月21日
対 象	外国にルーツをもつ若者および映像作成やメディア活動に興味がある人
場 所	とよなか国際交流センター
回 数	18回
内容 (一例)	映像編集のためのミーティング (6月5日) / DVD 制作作業・打合せ (9月11日) / 映像制作打合せ・デモ版 DVD 作成 (12月25日)
参加者数	のべ 47人 (うち外国人 26人)

**(5) 生活困窮者自立支援事業 子どもの学び場「学楽多」**

今年度の新規事業で、豊中市くらし支援課の委託を受けて「生活困窮世帯の子どもの学習支援」事業として行うことになった。委託の予算や仕様書、契約手続き等で時間がかかり、5月契約の6月28日スタートとなってしまった。学び支援の名称を「子どもの学び場『学楽多 (がらくた)』」とし、とよなか国際交流センターとしょうないガダバの2か所で行っている。とよなか国際交流センターでは6月～8月は火曜日 17:00～19:00 に、9月～3月は金曜日 (同時間) に行い、しょうないガダバでは毎週火曜日の 16:00～20:00 に行ってきた。子ども学習広場「学楽多」は2か所を合わせて80回行い、教科学習にとどまらず多様な学びができた。子どもは延べ183人参加し、ボランティアはのべ175人が子どもの学びを支援した。多文化フェスティバルへのブース参加や2か所合同のクリスマス会の開催などまた、保護者の教育相談や学校と縫協議やケース会議によって、卒業式や中学校進学への課題を共有し、その課題解決に向けた取り組みができた。

**【実施回数と年間のべ人数】**

場所	実施曜日	実施時間	参加のべ人数 (うち外国人)	のべ回数
とよなか国際交流センター	火曜 (6/28～9/6)	16:00～18:00	子ども 147 (86) ボランティア 98 (24)	40回
	金曜 (9/16～3/24)			
しょうないガダバ	金曜 (6/28～3/28)	16:00～19:00	子ども 36 (36) 、ボランティア 77 (0)	40回
総合計			子ども 183 (122) ボランティア 175 (24)	80回



